国際交流パーティー

8月は「花火」、10月は「お月見」、12月は「年忘れ」とそれぞれの季節にあわせて国際交流パーティーを開催しました。花火観賞、日本文化体験、各国紹介などをとおして市内及び近郊に住む外国人が楽しく市民と交流しました。パーティー会場に並ぶおいしい料理も好評でした。

外国人のための日本料理教室

8月19日（水）、食を通してさらに日本文化の理解と生活を豊かにするため、日本料理店松川の溝口忠詔さんを講師に迎え、日本料理教室を開催しました。流しそうめんやスイカ割りをして日本の「風情」を満喫しました。

また、12月6日（日）には、留学生や市内に住む外国人を対象に、おせち料理を学ぶ日本料理教室を開催しました。料理の基本はもちろん、様々な食材をおめでたい形へと変化させるこまかい包丁使いやおせち料理の由来、意味などを学ぶことで、日本の正月文化を体験してもらいました。日本の正月のお話を聞いた後には各国の正月の過ごし方などを紹介し合い、交流を深めました。

外国人のための市内ウォッチング

11月26日（木）在住外国人を対象に水戸市の公共施設めぐりと、日本文化体験としてそば打ち体験をしました。普段の生活ではなかなか訪れる機会がない施設巡りでは、「こんな場所があったなんて知らなかった」と時間を惜しんで見学していました。初挑戦の蕎麦打ち体験では、先生のご指導のもと、みんなで協力し合い完成させたお蕎麦の仕上がりにみなさん大満足のようでした。

世界の文化と料理

10月17日（土）からの4回連続講座で、韓国とブラジルに注目し、それぞれの文化や歴史、生活習慣について学びました。また、調理実習をとおして食文化の理解を深めました。託児を設けたので、お子様連れの方でも安心して参加できました。

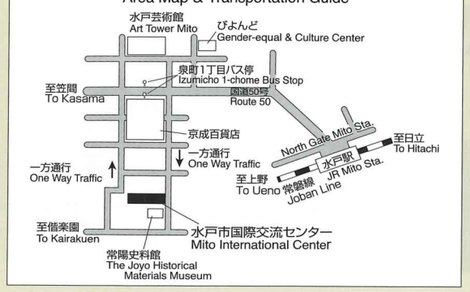
クラシック音楽でめぐるヨーロッパの街 6

2月10日（水）から3回に渡って開講された連続講座―水戸芸術館学芸員による音楽講座は今年で6回目。今回は19世紀から20世紀初頭に大きな足跡を残した作曲家シューマン、マーラー、サティの3人に焦点を当て、ヨーロッパの街々の紹介や、今日につながる足跡をたどりました。講座を楽しみにしている人たちで会場はいっぱいでした。

◇機関紙へのご意見や感想をお待ちしています。

〒310-0024　水戸市備前町6-59
水戸市国際交流センター内（財）水戸市国際交流協会
Tel：029-221-1800　Fax：029-221-5793
http://www.mitoic.or.jp　E-mail:mcia@mito.ne.jp

水戸市国際交流センター案内図
Area Map & Transportation Guide



地球環境に優しい「大豆油インキ」を使用して印刷しております。
(Printed by KOWA PRINTING Co.LTD.)
PRINTED WITH SOY INK

第35号 2010.3.

Mito City International Association

（財）水戸市国際交流協会機関紙

水戸市市制施行120周年記念

国際姉妹都市交流シンポジウム

11月1日（日）、「これからの姉妹都市交流のあり方―市民主導の交流に向けて―」と題し、国際姉妹都市交流シンポジウムを水戸市国際交流センターにて開催しました。

水戸市はこれまで、1976年（昭和51年）にアメリカ・カリフォルニア州アナハイム市と国際親善姉妹都市を、2000年（平成12年）には中国・重慶市と友好交流都市を結び、それぞれの都市との相互訪問をはじめとした交流を行ってきました。今後は、これまで培ってきた姉妹都市・交流都市の信頼関係を基に、姉妹都市交流の新しい展開を考えていくことが必要になってきていると考えました。

今回のシンポジウムは、このような背景のもと、アナハイム市と重慶市の関係者を迎え、国際交流・姉妹都市交流に深い関心を持つ市民の方々とともに、新しい姉妹都市交流のあり方について広く考えることを目的として開催しました。

Mito City International Association

水戸市市制施行120周年記念 国際姉妹都市交流シンポジウム

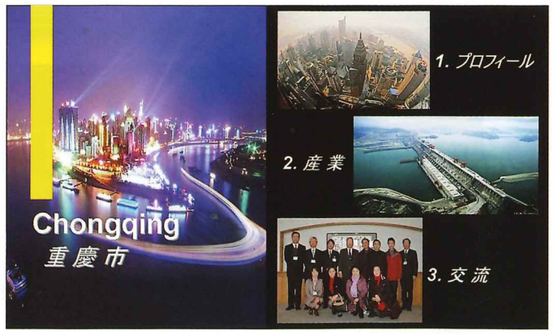
Ⅰ 基調講演

基調講演は、草の根レベルの国際交流や国際協力活動のコーディネーション・調査研究がご専門の毛受 敏浩氏（財団法人日本国際交流センター チーフ・プログラム・オフィサー）をお迎えして「姉妹都市交流の無限の可能性」と題し、講演していただきました。

講演は、姉妹都市交流の歴史的経緯と現状について知ることから始まり、具体的な事例を交えながら、姉妹都市とは一体どのようなものなのか、これからはどのような活動が望まれるのかについて考えさせられるものでした。その中で、『姉妹都市交流は「目的」ではなく、あくまで「道具（＝手段）」である』という言葉が印象的でした。姉妹都市交流は世界平和や地域の活性化に役立てる道具であり、その道具を使いこなせるのかどうかは使う人次第であるというお話は、これからの姉妹都市交流のあり方を改めて考える機会となり、また市民レベルでの交流の可能性に大きな期待を抱かせるものでした。

Ⅱ 都市紹介

アナハイム市と重慶市について、パワーポイントで紹介しました。



Ⅲ パネルディスカッション

基調講演を受けて、水戸市・アナハイム市・重慶市の関係者がこれからの姉妹都市交流の進め方についてディスカッションを行いました。

まず、それぞれの立場で国際交流・姉妹都市交流に関わってこられた各都市の代表の方々から、現状や日頃のお考えを述べていただきました。それをもとに、各パネリストから具体的な課題提案が挙がり、会場の参加者からも様々なご意見・ご感想をいただきました。単に相互訪問による交流に終始するのではなく、インターネット技術を使った交流や経済交流、お祭りを通した交流、身近な趣味や共通する関心事をテーマとした交流など、様々なアイディアが溢れていました。

スケジュール

1. 開 会
2. 基調講演「姉妹都市交流の無限の可能性」
   毛受 敏浩
   （財団法人日本国際交流センターチーフ・プログラム・オフィサー）
3. 都市紹介
4. パネルディスカッション
   「これからの姉妹都市交流の進め方について」
5. 交流会

<コーディネーター>
毛受 敏浩（財団法人日本国際交流センター）
<パネリスト>
ローリー・ギャロウェイ（アナハイム市議会議員）
ヘンリー・スーシー（アナハイム市姉妹都市協会前会長）
ジョン・グエン（アナハイム市姉妹都市協会理事）
呉　昌徳（重慶市政治協商会議弁公庁副庁長）
川瀬　由紀子（メサフレンドシップ会長）
井上　恵市（水戸コンベンションビューロー事務局長）
橋本　耐　（水戸副市長）

「国際姉妹都市交流シンポジウム」の詳細については、当協会ホームページでご覧いただけます。ぜひアクセスしてください。

同時開催 ◆ 国際交流のつどい ◆

11月1日から29日まで、恒例の国際交流のつどいを開催しました。

Ⅰ 交流の歴史パネル展

アナハイム市、重慶市との交流の歴史を写真パネルで紹介しました。開催期間中は、水戸市とアナハイム市の学生交流の様子や重慶市を紹介するDVDの上映も行いました。

Ⅱ 国際交流団体活動紹介展

当センターを拠点として、様々な国際交流活動を行っている17団体の活動状況をパネルなどで展示しました。写真や資料はどれもわかりやすく、日本人だけではなく外国人の皆さんも熱心にご覧になっていました。

また開催期間中、各団体の協力により、ケニア・マトマイニの雑貨やバングラデシュの伝統的手工芸の「ノクシカタ刺繍」などの販売を行いました。日本では見かけないカラフルな色合いの雑貨が並び、訪れた人々の目を楽しませてくれました。なお、販売品の売上金は、現地活動への資金援助として送金されました。皆様のご理解・ご協力に感謝いたします。

Ⅲ 講演会

11月14日（土）、「ハリウッドの歴史とアメリカ文化―お気に入りの監督とその作品―」と題し、茨城大学教育学部 君塚淳一教授に、ハリウッド成立の歴史やその繁栄の背景やアメリカ文化から眺める映画の見方などについて、お勧めの映画作品を交えながら解説していただきました。

Ⅳ 本場の味に挑戦！ 中国四川料理教室

11月21日（土）、黄 玲さん（四川省出身、中国料理研究家）を講師に迎え、家庭でも作れる本場の中国・四川料理教室を開催しました。麻婆豆腐や回鍋肉など、日本人が思い浮かべる中華料理のほとんどが四川料理ですが、今回は、「定番」ではないメニューに挑戦しました。簡単で美味しいレシピを教えていただき、参加者からも「さっそく家で作ってみるわ！」との声が聞こえてきました。

Mito City International Association

日本発見記 ◇外国人から見た日本・水戸◇

水戸市にお住まいの外国人お二人に、それぞれの目線から感じる「水戸」や「茨城」について伺いました。

渡邉ロスビタ

ドイツ・ベルリン出身。
留学生として約30年前に初来日。日本人のご主人とは東京で出会い、結婚。20数年前にご主人の仕事の関係で水戸へ。以来、3人のお子さんを育てる傍ら、ドイツ語を自宅や非常勤で教えている。

ジェフリー・バーク

アメリカ・テキサス州出身。
2008年7月より、茨城県国際課の国際交流員として勤務。約4年前には、大阪に留学生として1年程住んだことも。ブルーグラスのバンドではギター演奏を楽しんでいる。

―水戸のことで何か知っていることはありましたか?

ジェフリー　仕事の面接で、関東に住みたいと希望して水戸での勤務が決まったのですが、水戸のことは何も知りませんでした。前に住んでいた大阪とは言葉も全然違いましたね。

ロスビタ　私も、東京に住んでいた時、主人から「水戸に行く。」と、聞き「水戸ってどこ？」と、全然ピンとこなかったです。

―では、いざ水戸に来ての感想は?

ロスビタ　主婦・母親の立場から、子供達の目から見て、水戸は安全かどうかを調べました。子供の幼稚園も良い所が見つかりましたし、野菜などが新鮮で値段も手頃で安心しました。

子供が学校に入ってからは、水戸だからというより、日本の学校の勉強のさせ方に、びっくりしました。

1年生から夕方迄授業があるでしょ。ドイツだったら1年生は12時でおしまい。家でお昼を食べて、午後はたっぷり遊びます。日本では、家に帰ってきても宿題や友達と遊ぶのに忙しくて、家族の繋がりがゆるくなってしまうように思います。中学生も部活で19時過ぎにやっと帰ってくる。夕食の時も、「早く食べなさい。宿題、まだでしょ。」という会話ぐらいしかできません。

大学についても、ドイツでは各大学の入学試験はなく、その代わり、高校の卒業試験で良い点数をとれば、すぐ大学に入れます。点数が悪いと2、3年待たなければいけません。大学で学ぶ内容が仕事に向いているかどうかが問題なので、“とりあえず大学に行く”のだったら、中学校や高校を卒業後、すぐに職業訓練をした方が、仕事のためになるという考え方が多いです。ドイツでは、どの大学もだいたい同じレベルなので、地元の大学に行くのが普通です。大学生になっても子供は同居しているので、家族のメンバーという感じがするけれど、私の子供達は皆東京に行ってしまい、ちょっと寂しい気がします。

ジェフリー　自転車で市内を回ると、自然が多く、公園やスーパー等も近くて便利だと思いました。テキサスでは車がないと本当に不便なので、水戸では交通機関に恵まれ、良かったです。

あと、仕事では皆が優しく、すぐ慣れることができました。ただ、皆忙しくて、静かに仕事をしているので、最初は周りの人のことを知りたくても、いつ声をかけて良いのかわかりませんでした。今では、質問があれば聞いて良いことがわかり、楽になりましたが、多分、宴会まで皆がどういう人か全然知りませんでした。宴会では、楽な雰囲気で色々話せました。

コミュニケーションのスタイルや、気持ちの伝え方は違いますね。日本では、友達と居酒屋に行くなど、お金を出して外で会うことが多いですが、アメリカでは友達を自宅に招くことが多く、気楽な雰囲気で色々話せます。

それから、ある日本人の友達に色々な所に連れて行ってもらいましたが、彼はあまり自分の気持ちを言わず、本当に楽しんでいるのか不安になりました。私がかわいそうだと思って親切にしてくれるのかなと思いましたが、友達数人で新年会をした時、「あの時は楽しかったね。」と言われ、初めて「良かった。本当に楽しんでいたんだ。」と、安心しました。

―お二人とも経験から色々な感想をお持ちですね。水戸の良いところはどんなところでしょう?

ジェフリー　私は、外国人向けのサービスが整っている点だと思います。例えばこの国際交流センター。外国人向けの料理の講座や英語のサークル等、色々な情報があります。外国人を助けたいという人もいっぱいいると思います。県外の友達が水戸に来る時には、偕楽園等を見せたいです。偕楽園や千波湖はとても素晴らしいと思います。外国人で日本の文化、歴史に興味がある人には、水戸は歴史もあって面白いと思います。弘道館や徳川家の話がいっぱいありますよね。

ロスビタ　人もオープンでいいですね。東京の人だと、「お上品ざます」という感じで近づきにくいけど、茨城の人だと、「いいよ、いいよ。どんどん話して。」という感じ。しゃべり方も「ですます」ではなく、「だっぺ」とか使うし。最初は口調が強くて、怒っているの？と思いましたけどね。

ジェフリー　私も、最初は友達の茨城弁が聞き取れなかったんですけど、今は大丈夫です。茨城弁で話すと、話がもっとおもしろく聞こえるし、話している人はリラックスして楽しんでいる感じですね。

―なるほど。では、逆に水戸で生活してみて、改善してほしいと思うことはありますか?

ロスビタ　道路の表示です。ドイツだったら全ての道に名前がありますが、ここで迷子になると自分がどこにいるかわかりません。東京にはあちこちに地図がありますが、水戸にはないから、色々な所に周辺地図があると便利かな。

ジェフリー　車を買う時など、色々な手続きが多いと思います。車を買うには2週間もかかり、大変でした。市役所や警察に行かないといけなくて、もっと簡単になれば嬉しいです。だいたいの手続きは、平日のみの受付なので、仕事を休まないといけないのも大変です。

ロスビタ　あと、環境に対して、もっと考えてほしいかな。ドイツでは、赤信号などで3分以上待つなら、必ずエンジンを止めますが、水戸でエンジンがついたままのバスやタクシーに「アイドリングストップにご協力を。」と、頼んでもあまり良い顔をされませんでした。周りの畑や林が開発でどんどんなくなっていくことも悲しいです。ドイツではありえないことです。排気ガスの削減や自然を大切にすることにもっと気を配ってほしいです。

それから、自転車の問題。勝手にどこかに置くと撤去されてしまう。環境のために電車ももっと利用したいのですが、駐輪場代プラス電車賃を考えると、まだ車の方が安いなと思ってしまいます。

ジェフリー　私も水戸市内の移動は自転車です。やはり、お金を払わないと停められない駐輪所には抵抗があります。
でも、自転車を盗まれた時、一ヵ月後に警察が見つけて戻してくれたんです。アメリカではありえないことで、びっくりしました。乗り物だと、外国人には市バスの乗り方がわかりづらいと思います。漢字が読めないと行き先もわかりません。

ロスビタ　駅でもバスでも、アナウンスが聞き取りにくいです。停留所名は言っていますけど、前後に「ご乗車ありがとうございます。」とか「お荷物をお忘れなく。」と色々つくので、肝心な名前を聞き逃す外国人がいると思います。単純に、「次は○○(停留所名)です。」だけで良いかもしれない。

―当センターへの要望はありますか?

ジェフリー　日本文化や歴史の講座等を英語でやるとおもしろいと思います。私が知っている外国人の間では、そういうことに興味を持っている人がいます。

ロスビタ　外国人同士が横につながれる仕組みを作ってほしい。来たばかりの外国人にとっては、私みたいに長く生活している者が色々な情報を提供できるし、逆に私にとって新しい友達ができることは嬉しいことで、お互いに強い助け合いになりますよ。

―外国の方に茨城をPRするとしたら、どんな所を勧めますか?

ロスビタ　最近、笠間に行っています。山など景色もきれいですし、文化も面白くて大好きです。車で30分も行けば、御前山など温泉がある点も良いですね。水戸市内の自然はだんだん少なくなっていますけど、一歩外に出ると、かなり良いですね。大洗も良いし、海・山・歴史があって1セットというところでしょう。

ジェフリー　水戸の納豆や笠間焼き等、地域の特産品も外国人にとって面白いかもしれません。袋田の滝などの自然が豊かな所も良いと思います。

―多くの方に水戸や茨城を知ってもらえると嬉しいですね。貴重なご意見をありがとうございました。

当協会ホームページ内の「日本発見記」コーナーでは、外国人の視点から見る日本についての記事を定期的に掲載しています。

事業報告

連続講座 世界の歩き方

9月3日（木）・10日（木）～イギリス編～／1月27日（水）・2月3日（水）～フィンランド編～

この講座は、世界各地の旅の情報にあわせ、文化や歴史、芸術など講師の得意な切り口でご講演いただき、受講者の皆様にその国をより身近に感じて頂こうという趣旨のもと、今年度新たに始まりました。

記念すべき第一回（9月3日、10日実施）は、イギリスにスポットをあて、茨城大学教育学部の小林英美准教授に、南部から北部へ旅するようなイメージでお話いただきました。ご専門である文学の観点から、シェイクスピア作品の朗読、ピーターラビットの世界が広がる美しい湖水地方の映像、スコットランドの作詞家、ロバート・バーンズ作「蛍の光」の鑑賞等、豊富な音楽や映像資料を駆使した講座は、目や耳でも楽しめるものでした。

第二回目（1月27日、2月3日実施）は、フィンランドをテーマに、音楽学がご専門でいらっしゃる茨城大学教育学部の神部智教授を講師にお迎えしました。首都ヘルシンキからフィンランド各地の見所、民族叙事詩「カレヴァラ」とその影響を受けた芸術作品、さらに大作曲家シベリウスの音楽作品鑑賞と、なかなか知る機会がないフィンランドを身近に感じられる内容の講座となりました。

講師のお二方が共におっしゃっていたのが、受講者の皆さんの熱心さについてです。会場の雰囲気からも伝わってくるようで、つい話に力が入ってしまったそうです。

受講者アンケートからは、“この講座をとおして、実際にその国を旅してみたくなった”、“国のイメージが具体的になり、親近感がわいた”、“他の国の企画も楽しみ”といったご意見を多くいただきました。

来年度も、多くの方のご期待に添えられるよう、新たな国の魅力を引き出せるような講座を企画したいと思います。

アナハイム市学生親善大使受入れ

6月26日～7月9日の2週間、国際親善姉妹都市アメリカ合衆国カリフォルニア州アナハイム市から高校生4名と引率1名が来水しました。滞在中は市内の家庭にホームステイし、市内施設や学校への訪問などを通じて、水戸の市民と交流し、日本文化や日本の生活様式などを体験しました。

アナハイム市学生親善大使

Ionatan Cauneac イオナタン・コニャック（17歳 男性）
Tim Higashi ティム・ヒガシ（18歳 男性）
Cheyennena Flimban-Bedonie シャイアナ・フリンバンーベドニー（18歳 女性）
Lauren Yatar ローレン・ヤター（18歳 女性）
Joe Aihara ジョー・アイハラ（引率 男性）

どようサロン

お茶を飲みながら、英語での自己紹介やゲーム、ディスカッションなどをとおして、英語のネイティブスピーカーらと楽しく交流しました。また、世界の料理講座にあわせ開催しているどようサロンでは、映像を使った文化紹介を中心に、バングラデシュ、フランス、ベトナムをテーマ国として開催し、その国の方々と自由な会話をして楽しい時間を過ごしました。申込みは不要でどなたでも気軽に参加できるのも魅力の一つです。

つくってみよう！世界の料理

料理には、「世界をつなげる」パワーが秘められていると思います。その国の言葉はわからなくても、その国の有名な料理は知っていたり、その国に行ったことがなくても、その国の料理は食べたことがあったり、その国がどんな国なのかよくわからなくても、その国の料理だけは鮮明に頭に浮かんできたり・・・。みなさんもそんな身近な料理が遠い世界をつなげる力をこの講座で感じることができるかもしれません。

世界の色々な料理づくりをとおしてその国の文化や生活、習慣を学び、お互いの文化の交流を深めることを目的に始まったこの「つくってみよう！世界の料理」。これまでにバングラデシュ、タイ、フランス、ベトナムをテーマとした講座を開催しました。外国人講師が郷土料理の作り方を歴史、思い出などを交えて紹介し、最後にみんなで料理を味わう。日常生活に欠かすことができない料理には、その国ならではの習慣や特色がたくさん詰まっています。そんな料理をとおしてその国を美味しく楽しく知ることができるこの講座には、たくさんの笑顔があります。ときには、見たこともない料理の出来上がりがどんなものになるのかと不安になることや、日本人の感覚にはない材料の使い方や味付けに驚くこともありました。でも、きっとそれはお互いを理解することへの始まりです。この「つくってみよう！世界の料理」を通していろいろな国や人を知り、もっと理解し合うことで、世界のみんなが笑顔になれればいいと思います。

これからも様々な国を取り上げて行きたいと思いますので、ご期待ください。

※レシピは、当協会ホームページでご覧いただけます。

	開催日	講　師	メニュー
バングラデシュ	6月20日	ジアウン・ナハール	チキンカレー／キッチュリ 他
タイ	9月 5日	寺門　ジェンチラー	ギャンギョーワンガイ／ヤムウンセン 他
フランス	1月23日	ジェフ・ラッジ	チキンソテー／フレンチドレッシングのサラダ 他
ベトナム	3月 6日	ホーキムゴック・カムトゥ	ソゥーン ラム／カイン コァイ モー 他

親と子の国際講座

6月28日（日）～くらべてみよう！世界の行事～

幼稚園児や小学生の親子が、クイズや紙人形劇をとおして世界と日本の行事をくらべ、あらためて自国について学とともに、世界への関心を高めました。

12月12日（土）～世界のクリスマス～

歌やクイズ・映像を通して世界各地のクリスマスを紹介しました。最後は親子で協力し合い、クリスマスリース作りを楽しみました。

青少年のための国際理解講座～フランス編～

7月25日（土）、高校生と大学生がフランス料理作りをとおして楽しくフランスの文化や習慣を学びました。試食後は、講師の故郷の写真や映像をとおして、フランスの文化や習慣、生活の様子について理解を深めました。自分たちで作り上げた料理の出来栄えにみんなとても満足していました。